

# 南 瓜 技 術 情 報 No. 1

平成 2 8 年 3 月 2 3 日

組 合 員 各 位

大潟村農業協同組合  
特産南瓜生産組合

## 南瓜の播種育苗管理について

### 1. 床 土

育苗用土(赤・黒混合土)と完熟堆肥を1 : 1で混合したものを使用し、初期生育を確保するため、床土1 m<sup>3</sup> 当たり、ようりん約1 0 k g、稚苗5 - 8 - 5を約6 kg 施用してください。

なお、育苗用土または堆肥の確保が難しい場合、育苗用土は「ニッピ良菜培土」、堆肥は「ハイコンユーキ」等の資材を利用してください。

※播種前に床土のpH・ECの測定を実施してください。

pHの目安は6.0~6.5、ECの目安は0.5ms~1.0msです。

### 2. 播 種

ポット直播が望ましく、催芽してから播種します。播種前に床土に水をかけ、シルバーポリトウやパオパオ等の資材で被覆して床土の温度を上げておくことで生育が良くなります。播種後も保温、乾燥防止を目的にシルバーポリトウやパオパオ等の資材で被覆してください。

催芽方法・・・種子を一晩浸種させたのち、湿った布で包囲して、一昼夜放置すると芽を出します。(床暖房やこたつ等を利用すると簡単です。)

### 3. 管理方法

育苗に際しては**必ず地温計、気温計**を利用し、播種後は地温を2 5℃~3 0℃に保ち、一斉に発芽させます。灌水は午前中に行い、夕方には鉢土が乾くように管理してください。なお、発芽後は被覆資材を取り除き徒長苗にしないようにしてください。

育苗初期から低温で管理した場合、雌花着生が優先し、雄花の確保が難しくなることから、夜間に被覆資材等を活用し育苗期間を通して平均気温を1 5℃程度に管理するようにしてください。

- 育苗期間は、概ね2 0日程度を目安にし、定植日から逆算して播種してください。

定植の7日前頃より温度は昼18℃、夜13℃程度、灌水は控えめにし、丈夫な苗を育てます。なお、育苗後期に苗が密生状態になるときは、鉢をずらし苗の葉が重なり合わないようになしてください。また、老化苗にならないよう十分注意してください。

※ 水稻育苗後のハウスで栽培される方は、対象ハウス内で南瓜での使用登録のない農薬（パダン、プリンス、オリゼメート等）を水稻苗の上から散布した場合、出荷停止となりますので、注意してください。

#### 4. 圃場準備

##### ○野鼠対策

・野鼠は春にエサが増え、繁殖が活発になることから、3月、4月中に対策しておくことが重要です。

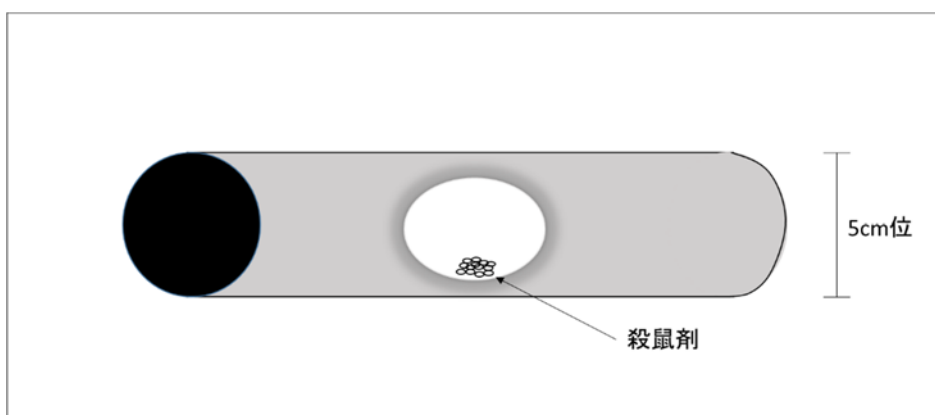
##### ・殺鼠剤

薬剤名	成分	適用	本剤回数	使用法
Z・P	リン化亜鉛	野鼠	—	定点配置 ソ穴投入 ばら撒き
ヤソ ジオン	ダイファ シノン	野鼠	—	定点配置 ソ穴投入
粉末 ラテミン	ワルファ リン	野鼠	—	定点配置 ソ穴投入

※殺鼠剤は使用方法・注意事項を熟読して使用してください

・種粃、鳥の餌、お菓子(かっぱえびせんなど)に殺鼠剤を混ぜ、使用後の油(天ぷら油等)をかけたものを使用すると鼠の食い付きが良くなります。

・パイプ(直径5cm位)などに殺鼠剤を入れて、餌場を作る方法もあります。殺鼠剤が減ってきたら適宜、追加してください。



・3月、4月に圃場をしっかりと除草しておいてください。除草しておくことで、鼠の隠れる場所が減り、鳶などの天敵に見つかり易くなります。